

中高生が考える男女共同参画

昨年6月に美郷中学校3年生と六郷高校3年生を対象に「男女共同参画に関するアンケート」を実施し、293名から回答をいただきました。



■ 区別と差別の違い

「男性と女性は体格が違うから平等に考えるのは難しい」という意見もありました。男性と女性では、遺伝子的に体のつくりや考え方に違いがあり、「男性でなければできない」「女性でなければできない」ことがあります。このことを「区別」と言います。「男性だから」「女性だから」とお互いできることの取り扱いに差をつけてしまう「差別」とは異なります。区別と差別には違いがあり、平等とは差別をなくすことなのです。

■ 男性にとっての男女共同参画

「男女共同参画は女性のためだけのものだ」と思っている方はいらっしゃいませんか。中高生アンケートでも「今の社会はどちらかという女性ばかりが優遇されている感がある」との意見がありました。しかし、実は男性にとっても大切な問題なのです。

男性の皆さんで、例えば次のようなことを感じたり、聞いたりしたことはありませんか。

- 家庭を経済的に支えるのは自分たち男性だと思うが、仕事ばかりではなく、家庭の時間も大切にしたい。
- 夫に求める条件として経済力を挙げる女性がいるが、今の自分の収入では結婚して生活する自信がない。
- 知らないうちに「男は弱みをみせられない」「男はこうあるべきだ」と考えてしまう。
- 男性の育児休暇は、仕事上で迷惑をかけるように感じられ、取得しにくい。

女性が「男は仕事、女は家庭」という考え方によって社会進出が阻まれてきたということは、これまでもよく言われてきました。しかしその一方で、男性も「こうあるべき」という枠にとらわれ、仕事と家庭の責任を一人で抱え込んでしまっていないでしょうか。（警察庁調べ：H25自殺者数は男性が約7割）

男性も家事や子育てなどに参加することで、生き方を見直すという「気づき」や「意識」に結びつけることは、豊かな人生を送るために意義のあることなのです。

■ DV(ドメスティックバイオレンス)って夫婦げんかはどう違うの？

アンケートの中で、男女共同参画に関するキーワードで見たり聞いたりしたことのある項目の第1位はDV(デートDV)でした。

「夫婦げんか」とはパートナー同士が対等な関係において意見をぶつけあうことです。一方、DV(ドメスティックバイオレンス)は常に力の強い者から弱い者へと振るわれる身体的暴力だけでなく、精神的暴力、社会的暴力等の一方的にむけられる暴力のことをいいます。若いカップルの間でも起きています。これを「デートDV」と言います。

暴力は、人間としての尊厳を奪ってしまう重大な人権侵害であり、時には命を奪うこともある犯罪行為です。

「DVかも…」と思ったら、すぐに相談を!

【相談窓口】

- DV相談ナビダイヤル ☎0570(0)55210
- 秋田県女性相談所 ☎018(835)9052
- 秋田県警レディース110番 ☎0120(028)110
- 秋田県南福祉事務所 ☎0182(32)3294
- 美郷町役場 福祉保健課 福祉班 ☎0187(84)4907

男女ともに支える仕組みづくりを!

住みよい環境づくりを行うためには、女性の社会参加を進めることは極めて重要ですが、その中で男女共同参画を進めていくなれば、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をとることが必要不可欠であり、男女とも仕事等の社会参加、家庭や地域参加、そして自分づくりの時間が持てるような社会をつくっていくことが、これからの時代に求められています。少子高齢化と言われている現在、これから時代を担う子供たちに老若男女で家庭・地域を貫いた子育ての仕組みを作っていくこと、男性女性に限らず、互いに協力し助け合う関係を築いていくことが必要なのです。

美郷町男女共同参画住民懇話会活動報告

美郷町の男女共同参画社会の実現のために男性6名、女性6名の委員で取り組みの検討や啓発活動を行っています。

6月に美郷町男女共同参画キャッチフレーズを募集し、最優秀作品「広がるよ あなたが始めた 参画社会」を決定し、今年度の啓発活動のテーマとしました。

男女共同参画出前講座では、住民懇話会委員による男女共同参画社会を分かりやすく伝える朗読劇を、美郷いきいき大学や湯沢市で上演しました。また、成人式や美郷フェスタなどで男女共同参画の啓発活動を行いました。



美郷町男女共同参画住民懇話会委員の皆さんへのインタビュー

畠山 朋寿 さん



男女共同参画キャッチフレーズ募集には、中学生や高校生などからも応募があります。内容を見ると、自分の両親や祖父母の家庭での様子から感じ取ったことを書いている作品も見られます。

「男性は仕事、女性は家事」というような家庭で育つと、子どもたちも自然とそれが当たり前だと思うようになるかもしれません。反対に、お父さんお母さんが協力している家庭で育てば、それが当たり前と思えるようになります。

家庭でも職場でも、日常的なことへの感謝の気持ちを表すことは大切だと思います。お茶を入れてくれたら「ありがとう」など、何気ないことでも感謝されると、相手もうれしくなります。私も子どもたちが家の手伝いをしてくれた際は、必ず「ありがとう、助かった」と伝えるように心掛けています。

相手への思いやりの心を持って実践することが、男女共同参画の第一歩だと思います。

笹 智子 さん



委員になるまでは「男女共同参画」について意識することはありませんでした。核家族で共稼ぎの我が家では、夫に協力をもらいながら家事をしていたため、これが当たり前だと思っていたのです。

家族の何気ない日常を題材にした朗読劇を行ったときには、観客の方から「家族にも聞かせたい」という声をいただくこともありました。家事や育児、介護を一人で担当するお母さんが急に入院したら、残された家族は大変ですよ。

「常日頃からお互いにできることは協力し合う」ということは、とても大事だと思います。周囲の目を気にして男性に家事を任せづらいという人もいるかもしれませんが、そんなときは「うちの夫は何でもできるのよ」と自慢してみてもいいかもしれません。

朗読劇を通じて、男女の差別で日頃窮屈な思いをしている人たちに、「これって変だよな？」ということを意識してもらいたいですね。



男女共同参画に関する本を読んでみよう 美郷町学友館で貸し出ししています

男女共同参画がテーマの新しい図書を取り揃え、3月16日(日)までは図書室内に特設コーナーを設けています。ぜひご利用ください。

- ・月給たった5万円!でも、選びました 小竹貴子(著)
- ・カドをたてずに言いたいことを言う方法 平岡由美(著)
- ・現場女子 遠藤功(著)
- ・なんちゃって育児休暇でパパ修行 成澤廣修(著)
- ・父親を嫌っていた僕が「笑顔のパパに」なれた理由 安藤哲也(著)
- ・0歳～6歳はじめての男の子の育児 関和夫(監修) 善方裕美(監修)
- ・0歳～6歳はじめての女の子の育児 善方裕美(監修)
- ・カリスマ助産師トコちゃん先生の赤ちゃんが すぐに泣きやみグッスリ寝てくれる本 渡部信子(著)
- ・新Good Job かたおかみさお(著)
- ・凄母 佐藤留美(著)
- ・まよなかのたんじょうかい 西本鶏介(作)、渡辺有一(絵)
- ・おとうさんのかさ 三浦太郎(作)
- ・ぱっくんおおかみおとうさんになってる 木村泰子(作・絵)
- ・おとうさんぼくおさかなつったよ! いりやまさとし(著)